

庄内協同ファームだより

No.141 2012年10月号



発行/

〒999-7631 山形県鶴岡市八色木字西野338

tel.0235-78-2120 fax.0235-78-2140

<http://www.shonaifarm.com>



庄内の稲刈風景

庄内町の余目まつりが九月十四、十五、十六日と行われました。毎年、これが終わると本格的に稲刈りのシーズンをむかえます。七月二十六日の梅雨明け宣言以降の高温で稲の収穫時期も平年よりも一週間程度早まるようです。積算温度もすでに到達しており品種毎の適期を示したチラシが各農家に配布され、刈遅れのないように呼びかけられています。高温で品質低下のあった二〇一〇年よりも高めに推移している今年、収量もそうであるが品質が気になるところです。暑さ寒

さも彼岸までと云われますが、今年も秋は彼岸を迎える時期になってもまだまだ暑い日が続く、そんな中での刈り取り作業となります。

各種研修会、勉強会、交流会を通して「原発、放射能問題」と「TPP問題」についてのテーマが多くありました。農業の現場とは遠くかけ離れていると思っていたことに直面し考えさせられることが多いです。数年前、FTA（自由貿易協定）やEPA（経済連携協定）が推進ムードにあった頃に農業が「あしかせ」になっているという議論がありTPPでも同様の問題になるでしょう。

「農業の算出額がGDPの一パーセントだから農業がなくなっても日本経済からみたらたいした問題ではない」と主張する経済学者もいます。そのような発言が国民（消費者）に大きな誤解をあたえています。意図的に誘導しているようにも感じられます。中小の零細農家が多く兼業化や高齢化が進み、自立も産業化も出来ず国際競争力もないという現状を認識し農業政策の方向を示してもらいたいと思います。「農業」＝「過保護」と云われて久しいですが、それほど大切に保護されている農業をやる人がいないのは何故なのでしょう？

先日、の総会において役員の改選があり、青年部から三名の新理事が誕生し、活躍が期待されています。年齢的にも大幅な若返りで設立メンバーの決意、決断、覚悟の象徴の布陣で三年間一緒にがんばってきたいと思っています。

理事 佐藤 和則

役員改選のご報告



代表理事
小野寺喜作

このたび、8月7日開催の第24回定期総会で、任期満了に伴う役員改選(3年任期)が行われ7名の理事と2名の監事が選出されました。30代の理事が農事組合法人の運営者として交替し、なおかつ20代・30代の新組合員(3名)の加入により、組織として若返りが図られました。総会後の臨時理事会で、私 小野寺喜作が代表理事、今野裕之が副代表に推薦され満場一致で承認されました。

前代表の五十嵐良一が務めた3年間はもち加工場の様々な改善、品質加工部の新設、組織体制の見直しや内部改革がなされました。

また、東日本大震災と原発事故等これまで考えられなかったことへの対応の連続でした。

世代交代を図ることを優先したいという意向から、退任しました。これまでのご苦勞に改めて感謝申し上げます。前身の庄内農民レポートからはじまり、1989年に農事組合法人を設立し、今期25年の節目の年にあたります。今後も、これまでの事業を継続しながら、理事・組合員の力を大いに発揮できるよう、新体制で誠心誠意努力いたす所存でございますので今後とも、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

就任	代表理事	小野寺喜作	理事	高橋 直之(新任)
	副代表	今野 裕之	理事	石垣 忠彦(新任)
	理事	小野寺 彰	監事	小野寺仁志(新任)
	理事	佐藤 和則	監事	廣井 嘉治(新任)
	理事	富樫 俊悦(新任)		

よろしくお願いします! 新組合員です

くどう ゆうき
工藤 祐生

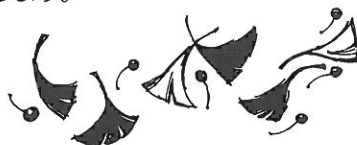


このたび新組合員になりました工藤祐生です。現在、婚活中で一生懸命活動しておりますが、農家の婚活事情は正直言って世間は厳しく、個人の力では限界を感じはじめていますので、新組合員のやる気を出させる為にも、どなたか良い人がいらっしやいましたら紹介してください! (笑)

おのでら のりまさ
小野寺紀允



新組合員の小野寺紀允です。庄内好きで、庄内のステキな場所や人を散策中～。これからもおいしい魅力を生産、発信していきます。



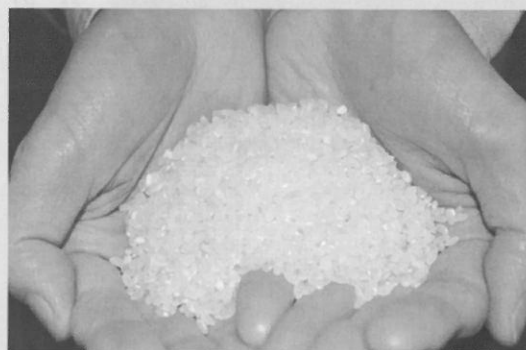
おのでら たかのり
小野寺貴紀



新組合員になりました小野寺貴紀です。就農して3年目になります。生産者の方たちのノウハウを学びながら、少しでも生産の力になれるように、頑張っていきたいと思います。また、色々な研修で皆さんと交流を深めたいと思います。

庄内協同ファームの

おいじいお米



今年も暑い

暑い夏が終わりました。ここ数年は温暖化の影響か、全国的に30度を平気で超える記録的な真夏日が何日も続きました。ここ庄内地方も例外ではありません。晴

ができませんでした。庄内協同ファームのお米には、アイガモ農法や紙マルチ農法等を取り入れた有機栽培米、(農薬と化学肥料が不使用)、もうひとつは化学肥料を使わず、農薬も地域慣行基準の可能な限り削減した特別栽培米があります。今年の収穫が終わり、また来年同じように米作りが始まるわけですが、そのとき「おっさん」(生産者)は叫ぶのです。「今年も立つんだ! (育つんだ) ジョー! (稲)」と。今年も庄内協同ファームのお米をよろしくお願いします。

れの天気が長く続くのはいいのですが、その一方で暑すぎる日が続いたために稲の高温障害も懸念されます。

しかし稲は、どんなに暑かろうが、一生懸命育とうとします。やがて大きな稲穂を実らせ、コウベを垂れて収穫の時期を待つのです。まるで某有名漫画の「あ○たのジョー」が「燃え尽きたよ」とリングコーナーで白髪になってうつむいてる姿のよう。それをトレーナーの「おっさん」(生産者)が刈り取るわけです。

そんな漫画のようなドラマがあったかどうかは定かではありませんが、今年も庄内協同ファームの生産者が手塩にかけて育てたお米



第9回

全国農業後継者会議に参加して

石垣 忠彦

9月の6,7日と大潟村で行われました、第9回全国農業後継者会議に参加しました。北は地元の秋田県から南は沖縄県まで、事務局を合わせると67名の大きな会議となりました。

初日は生産者と若手社員を交えてのパネルディスカッションでした。テーマは「有機農産物の販売とマーケティング」。「消費者へ直売していくためにはいろいろな工夫が必要。品質の良い確かな物を欠品なく届けることが大切。一番の宣伝効果は、テレビや新聞ではなく、お客様が口コミで広げてくれること。お客様とは顔が見える関係を築くことが大切。」などの意見が出されました。

2日目は大型バスに揺られて大潟村内の南部排水機場と黒瀬友基さんの有機圃場を見学しました。9町歩の無農薬水田に1本も雑草がなかったことに本当に驚かされました。

今回の会議に参加した生産者は、元気がよくパワーがあり、いろんな夢のある人ばかりでした。「明日から私も頑張るぞ!」と思わされた会議でした。



ペンリレー

徒然草

皆川 昭子



残暑の中、実りの秋となりましたが、今年の夏は猛暑の影響

で一時は、収穫に不安の日々を過ごしていました。幸い、当地では水不足や台風、ゲリラ豪雨などにも見舞われず、我が家の米は何とか平年並みの収穫になりました。

この「新米」が「玄米おこし」や「各種米おこし」「各種ぼんちゃん」など



の加工品の原料となります。

私にとって、大きな出来事がありました。今までの農林水産省から新

しくできた消費者庁の通達や指導で、製品を作り販売しなければならぬことになりました。

常に新たな情報を取り入れなければ作れない事を知り、大変勉強になりました。

私の作る「玄米おこし」は無農薬、無化学肥料のお米を使用し、黒砂糖はこだわりの沖縄産を使用しています。

「サクッ」とした軽い歯触りと後味の爽やかな

猫と会話(暮らす)

今年の夏は暑かった。いつもの夏よりめっちゃ暑かった。涼むものといえば扇風機1台。この扇風機

でこの夏を乗り切ったのだ。ご苦労様でした。

しかし、旦那は悲鳴を上げた。「こんな暑さ耐えられねえ!来年はクーラー付けねばのお!!」と私を見た。私はミミに視線を送った。(ミミとはうちのお嬢様猫で大切な家族)「ミミ、お父ちゃんクーラー付けてくれだっ。どう思う?」「お母ちゃん次第じゃないの」目をまん丸くして私をじっと見つめる。ミミは、私が働いている庄内協同ファームの駐車場に迷い込んできた子猫だった。耳の長い美人猫だったが、今は人間でいえば40過ぎのおばさん。50過ぎの私とはそれなりに会話も成り立つ。

ミミの好物は納豆。納豆といっても豆ではなく入れ物についているネバネバを舐めるのだ。旦那が朝ご飯を食べる時に納豆を食べるのでミミはテーブルの端に前足の先を乗せ待っている。見ていだけで癒される。時々ニャ〜と鳴く。「早くちょうだいよ」と言っているようだ。

ミミは一人で留守番をしているせいか夜が待ち遠しいらしい。寝る支度をしていると「お母ちゃん早く早く」とせかす。ごろんと仰向けに寝ると、お腹の上にミミが乗って私の顎の下を舐めるのだ。ザラザラした舌で舐める。これが痛い!「ミミ、やめてくれ〜」と言うと、ニャ〜と鳴いてやめてくれる。旦那が見ながら「親のアザラシに赤ちゃんアザラシが乗っているみたいだ。」と言われた。自分でもそう思う。

今日もまたミミに声をかける。(佐優)



甘さが評判で皆様に喜ばれています。皆様のおいしい笑顔を思い浮かべることが私を元気にし、作る励みになります。

これからも「玄米おこし」「各種米おこし」「各種ぼんちゃん」をよろしくお願い致します。

あとがき

ウサギウサギ何見てはねる十五夜お月様見てはねる〜♪

「十五夜」はこれから始まる収穫期を前に、収穫を感謝する初穂祭としての意味あいがありました。9月頃に収穫される「芋」をお供えすることから「芋の名月」とも呼ばれています。現在では、丸い月見団子と魔除けの力があるとされた薄を供えるのが定番でしょうか。私はお芋もお団子も好きですね。お腹も丸くなりそうです。

先日丸いお月様を見ていましたが、太陽のように明るく輝いていました。月は自分で光ることができません。皆さんも存じのとおり、太陽が照らして光ります。太陽の光をいっぱい受けて輝く満月を見ていると、自分を支えてくれる人たちがいるからお月様のように明るく過ごせるんだなと感じます。

満月といえば、欠けているところがないことから豊穡の象徴だったそうです。こちらの庄内は今が稲刈りの時期となります。近いところだと9月30日と10月30日頃がちょうど満月。今年も皆様においしい新米をお届けできるようお祈りしながら、自分を照らしてくれていることに感謝してお月見してみようかと思ひます。

(月)

